

### 3 池田光行議員

#### 1 令和6年度町政執行方針について問う



#### 1 令和6年度町政執行方針について問う

本年は木村町長が2期目の町政を執行するスタートの年であり、3年半のコロナ禍を乗り越え、地域経済の緩やかな回復、エネルギー・食料価格の高騰や労働者の確保などの問題がある中、50年先のまちづくりを見据え、岩内町立地適正化計画を策定し、それに沿った町の中心拠点の将来像を示し、民間投資を呼び込んで、地域の課題に取り組む決意のもと、健やかなまちづくりを目指す決意を述べられております。そこで、今年度の町政執行方針について4項目の質問をいたします。

##### 1、関係人口の創出・拡大について。

岩内町への想いの深い岩内ファンを増やす取り組みとして、岩内観光大使である東京ふる里岩内会、大相撲力士の一山本関や、アイスホッケーで活躍している橋本僚選手などと関係性を深めることで関係人口との繋がりを深めるとのことですが、具体的にどのような考えなのかお伺いいたします。

##### 2、観光振興対策について。

地域の強みである自然、歴史・文化、食などのストーリー性を持たせた観光を目指し、観光デジタルマップなどのコンテンツの充実など、観光DXを推進しますが、具体的にはどのような取り組みを想定されていますか。

円山エリアでは日本夜景遺産の認定、いわない温泉の温泉総選挙2023総務大臣賞受賞で注目が増えています。また、今シーズンもイワナイリゾートのキャットツアーが好調でインバウンド客も増えていると伺っています。さらには、ニセコエリアのインバウンド客をターゲットにしてバスで岩内に送迎し、岩内の海産物を岩内で食べていただくことをコンセプトとした店舗が開店し、今後さらに外国人観光客の増加が想定でき、岩内観光の起爆剤となると思うが、彼らを受け入れるためのフリーWi-Fiエリアの増設、観光英字サイン、英字パンフレットなど、町におけるソフト面の対応の充実について伺います。

##### 3、深層水事業による地場産業支援対策について。

深層水事業は供用開始から約20年が経過しています。この事業開始以来の収支はマイナスであり一般財源で補填されている状況であります。深層水は様々な元素を含み、富栄養性、清浄性、低温性、安定性などの優れた特性を持つ有益な海水であります。十分に利活用しきれていなく、大変ポテンシャルの高い町の重要な資源であります。現状では生ホタテ輸送への利用、ナマコ種苗の生産技術の確立研究、漁業・水産加工業、化粧品原料として利用されている程度です。

今後、この事業を継続するにあたり重要なのは収支の改善であり、そのためには深層水利用企業を増やすための営業活動及び更なる利用方法の調査研究が重要と思われます。また、脱塩装置・分水設備の維持管理、約20年経過した取水管の更新等が喫緊の課題と思われます。収支改善の営業計画の方向性並びに、サポートセンター建物も含めた施設の改修・更新計画について伺います。

また、ナマコ種苗を岩内郡漁業協同組合では年間約700万円分を道の増養殖機関や民間企業より購入した実績がありますので、今後サポートセンターでの生産が可能になれば、岩内漁協や他の生産者への販売ができ、収益も大幅に改善できますので、研究段階を終え、生産施設の整備を行い、ナマコ種苗の販売を目指すべきと考えますが、町の計画を伺います。

#### 4、地域公共交通の確保について。

循環式のノッタライン及び円山地域乗合タクシーについては、全体的なバランスや安全面を考慮した運行ルート確保に努めながら、引き続き地域住民の利便性や交通手段をもたない高齢者等の外出機会が確保されるよう、持続可能な運行を努めてまいりますとありますが、ノッタラインや乗合タクシーが運行されてから民間のタクシーの運行台数が減り、コロナ禍後はさらに減少し不便になったとの声が多く聞かれます。これらの原因は、ノッタライン等の運行開始が影響し、タクシー利用者が減少したことも考えられるが、そもそも人口の減少も要因であると考えられる。さらには、運転手の給与体系も影響していると指摘されているが、タクシーが来ない事案は全国的な話題にもなっているようです。また、ノッタラインと乗合タクシーはどちらも循環方式で、路線や停留所から離れていると高齢者には不便で、利用し難い状況にあります。

そこで、10人乗りのワゴン車のドアツードアのデマンド交通の実証試験を行い、運行はタクシー会社に委託することでタクシー会社への支援にもなると思われます。また、実証試験の結果によっては既存の循環方式のノッタライン等の存廃も含めた検討が必要となることも考えられますが、町の考えを伺います。

**【答 弁】**  
**町 長 :**

1 項めは、関係人口の創出・拡大についてであります。

関係人口の創出・拡大を目指すための岩内ファンを増やす取組といたしましては、岩内観光大使である東京ふる里岩内会や大相撲の一山本関、更には、アイスホッケーレッドイーグルスの橋本僚選手など、様々な舞台で活躍されている岩内町とゆかりのある方々との交流を深めることなどを中心に、本町の理解者・応援者になっていただけるよう地域の取り組みや魅力の発信に努めてきたところであり、一山本関におきましては、昨年9月場所で十両優勝した際には、本町へ凱旋訪問していただき、後援会をはじめとする地元関係者との交流や、母校への訪問による生徒たちとの交流が図られるなど、多くの時間を共有できたほか、橋本僚選手におきましては、令和5年3月に苫小牧市で行われたレッドイーグルスの試合を観戦させていただき、試合後には橋本選手との懇談や写真撮影などの交流が図られたところであり、また、8月に開催いたしました怒涛まつりにおいては、多くの町民の皆様の前で対談をさせていただく機会を通じて、改めて本町とのつながりを強く実感できたところでもあります。

令和6年度におきましても、岩内観光大使単体や、町とのコラボレーションによるイベントなど、積極的な交流活動を実施していきたいと考えており、具体的な取り組みとしては、東京ふる里岩内会会報への寄稿により町の直近の取り組みを広くお伝えするほか、東京都で開催される北海道産直フェアにおいて、出店のご協力をさせていただき、特産品のPRを実施する予定となっております。

また、一山本関や橋本僚選手など様々な舞台でご活躍されている方々の情報を町ホームページやSNS等で積極的に発信し、本町とのつながりを広く知っていただくことが、本町の魅力の底上げ、ひいては岩内ファンを増やすことに繋がるものと考えております。

いずれにいたしましても、関係人口の創出・拡大におきましては、本町を応援してくださる方の輪を広げ、地元を離れた方々や新たな岩内ファンの獲得のみならず、こうした取り組みの継続的な実施により、町への理解を深めていただくことが、更なる応援に繋がるものと考えておりますので、引き続き、施策の着実な推進に努めてまいります。

2 項めは、ストーリー性を持たせた観光振興や観光DXへの具体的な取組とフリーWi-Fiの増設や英語化へのソフト面の充実についてであります。

ストーリー性を持たせた観光振興については、令和3年度からホップ、酒米、ホワイトアスパラガスの栽培を手がける各生産者に対し、町として継続した支援をしており、野生ホップ発見の地やアスパラガス発祥の地などの歴史的ストーリー性を活かしながら、ホップやホワイトアスパラガスなどの付加価値や魅力を見だし、磨き上げ、食と観光を掛け合わせた観光振興を目指すものであります。

また、観光DXへの取組については、観光デジタルマップの運用開始を目指し、具体的にはスマートフォンなどでグーグルマップのGPS機能を活用したナビ情報を使い、近くの飲食店や観光スポットへの誘導を促すほか、インバウンド客も見据えた英語、中国語、韓国語など、9言語に対応した利用者の言語設定に応じて自動で切り替わる翻訳機能も加えるなど、まちなかの周遊をスムーズに促しながら、来訪者の滞在時間の延長や、消費効果の拡大などに向け、

本年4月からの運用ができるよう準備を進めております。

また、フリーWi-Fiエリアの増設については、道の駅いわないでフリーWi-Fiが利用できるほかは、主要な観光施設へのフリーWi-Fiの整備やデジタルサイネージの設置などに向け、現在検討を進めているところでありますが、実施にあたっては、大規模改修中のオートキャンプ場マリビューや、今後予定される観光施設の整備等も踏まえ、先進地における整備状況なども情報収集しながら、効果的に進められるよう引き続き検討してまいります

次に、英語化へのソフト面の充実については、北海道と岩宇4町村の連携による岩宇まちづくり連携協議会の本年度の事業として、ニセコエリアでのオーバーツーリズムを踏まえた、岩宇エリアへのインバウンド客の誘客を目指し、冬季のインバウンド客向けに、体験型ツアーの英字版パンフレットを作成したほか、本年1月から2月にかけて岩宇エリアへのモニターツアーを5回実施し、5か国延べ34名のインバウンド客がツアーに参加したところであります。

こうした中で、観光情報に関する英字サインや英字パンフレットの整備の必要性はあるものの、特に、インバウンド客については、スマートフォンなどを利用した情報収集のニーズが高い傾向にあることから、このたび運用を開始する観光デジタルマップの各言語の利用状況などを検証しながら、デジタル化における効果的な多言語化への対応など、ソフト面の充実に向け、今後も継続して検討や取組を進めてまいります。

3項めは、深層水事業による地場産業支援対策について、深層水事業の収支改善のための営業計画の方向性並びにサポートセンター建物も含めた施設の改修・更新計画と、ナマコ種苗の研究段階を終え、生産施設の整備を行い販売を目指すべきと考えるが、町の計画はについてであります。

深層水事業特別会計については、深層水使用料収入の不足分を一般会計から繰り入れで運営しているところであり、会計健全化のためにも、深層水の一層の普及拡大は重要であると考えております。

このため、町ではこれまで深層水の利用価値を高めるための深層水効果実証試験結果の発信のほか、企業訪問、休日開館や深層水まつりの開催など深層水の利用拡大に努めてきたところであります。

こうした中、新たな取り組みとして、昨年よりトラウトサーモンの出荷調整試験を実施しており、深層水の効果的な活用の可能性を検証しているところであります。

また、令和6年度では、深層水塩の味覚分析試験を予定しており、その成果を既存商品並びに新規商品の付加価値化や深層水の普及に役立てたいと考えております。

いずれにいたしましても、今後も深層水事業を継続・展開していけるよう各種の取り組みを継続し、事業会計の健全化が図られるよう努めてまいります。

また、サポートセンター建物も含めた施設の改修・更新計画については、深層水施設は、取水・送水関係、脱塩装置関係、分水設備などの販売関係、地場産業サポートセンター建物の大きく4つに区分しており、いずれも供用開始から間もなく20年が経過します。

これら施設の改修・更新時期につきましては、取水管は、耐用年数が50年のため、当面の間、更新の必要はないものと考えており、その他の装置や設備等についても、年次点検に加え、優先度の高いものから順次、オーバーホールなどの計画的なメンテナンスで対応しておりますが、取水ポンプなどのポンプ

類については、令和11年度以降、順次更新が必要となることから、その他の機器、建物についても耐用年数を踏まえ、実施時期や内容を検討し、具体的な更新計画を策定して対応してまいりたいと考えております。

次に、ナマコ種苗の研究段階を終え、生産施設の整備を行い販売を目指す計画についてであります。地場産業サポートセンターでは、深層水を活用した陸上におけるナマコの種苗生産試験を平成27年度から開始し、現在は東海大学生物学部の指導のもと、岩内港における稚ナマコを放流可能サイズまで育成する海中中間育成試験も含め、安定した種苗生産の確立に向けた試験を実施しているところであります。

これまでの試験を通じて、親ナマコを産卵させ、ふ化させる段階までは安定的に行えている一方で、波浪や食害の影響を受けない放流に適したサイズまでの育成技術が確立されていないことから、引き続き研究を続けることが必要と考えております。

したがいまして現段階では、種苗生産技術が確立するまでには至っていない状況ではあります。種苗生産技術が確立した際には、その種苗生産技術を生かした事業展開が望まれることとなり、そのためのナマコ種苗生産施設の整備や人員確保に加え、事業主体や事業費の課題も含め、岩内郡漁業協同組合と町、民間事業者など水産関係者間において、生産体制の構築など、計画についての具体的検討が必要となるものと考えております。

4項めは、地域公共交通の確保についてであります。

本町では、高齢者等の通院や買い物など、日常生活の交通手段の確保のため、平成28年10月から、いわない循環バス、ノッタラインを本格運行しており、昨年6月からは、円山地域と市街地を結ぶ円山地域乗合タクシーの本格運行を開始したところであります。

ノッタラインの運行状況といたしましては、令和元年度の4万2,540人をピークに減少傾向が見られたものの、ここ数年は3万5千人前後で推移しており、地域の足として定着してきているものと認識しております。

こうした本町におけるコミュニティーバスや乗合タクシーなどの路線定期型交通に対し、デマンド型交通は、バスやタクシーなどの公共交通機関がない地域や、行政面積が広く交通需要が分散している自治体など、地域特性に合わせて導入が進んでいるものと認識しております。

このデマンド型交通は、事前予約制であり、需要に合わせた運行が可能であるため、輸送効率が高まることや、自由な経路によるドアツードア型により利用者のアクセス負担が軽減されるなどのメリットがある反面、時間帯によっては、想定を超えた予約により、配車が困難となることや、路線定期型と比較し、利用者1人あたりの運行経費は平均で見ると高い水準にあるなどのデメリットもあると理解しております。

また、デマンド型交通は、その運行形態が一般タクシーと類似していることから、ハイヤー・タクシー事業との差別化が必要であることや、運転手の確保など、既存の地域公共交通事業者との調整、合意などが必要であり、慎重な検討が必要となるものと考えております。

町では現在、ノッタライン及び円山地域乗合タクシーを含め、持続可能な地域公共交通を目指している中、ノッタラインの車両も当面は使用可能な状態であることや、1便あたりの利用者数も、多い便では、今年度の実績で、最大49人の乗車があったこと、更には、バスのルートや時間が町民に定着してきて

いることなどから、現段階ではデマンド型交通の導入に関する具体的な検討には至っていない状況にあります。

こうした中、今後、地域内の人口減少や、土地利用の変化などにより、デマンド交通も含めた他の交通体系の検討も必要になるものと考えていることから、デマンド交通を導入している町村に対して、状況を確認するなどの情報収集も行っております。

したがって、こうした情報を基に、ハイヤー・タクシー事業者とも、本町におけるデマンド交通の可能性について協議する中で、持続可能な地域公共交通を目指し、岩内町地域公共交通活性化協議会において、適宜議論してまいります。

## < 再 質 問 >

関係人口の創出・拡大について。

答弁の中で、橋本選手の試合を苫小牧で観戦されたとのことでしたが、大相撲本場所観戦を一山本後援会と連携し、さらには岩内で一山本の幕内昇進のお祝いもまだ実施されていないようなので、町外のファンも含めたお祝いの会の実施を考えられてはどうか伺います。

次、3番めの深層水事業による地域産業支援対策について。

ナマコ種苗の育成は道施設・民間施設、さらには先進地の漁協や漁業者の生産組合では実績がある。それらを踏まえると、いち早い事業化が求められるが、それらの組織と積極的に情報交換を持ち、ノウハウを収集し種苗生産施設を設けるべきと思うが、再度町の考えを伺います。

さらには、施設の改修・更新計画について、ポンプ施設の更新が令和11年度から必要との答弁があったが、中長期財政見通しの中には反映されているのか。現在、予測している改修・更新にかかる費用はいくらなのか、併せて質問いたします。

**【答 弁】**

**町 長：**

1 項めは、関係人口の創出・拡大について、一山本関の本場所観戦とお祝いの会の実施についてであります。

一山本関については、これまで昨年の十両優勝を含め、十両優勝 2 回及び敢闘賞を受賞されているなど、こうした活躍は、岩内町の名前を全国に知っていただける機会となっております。

町といたしましても、一山本関を応援するための本場所観戦や、お祝いの会の開催等を含め、町民の皆様とともに、どのような形で応援・祝福していけるのか、今後検討してまいりたいと考えておりますが、いずれにいたしましても、一山本関の来道につきましては、これまでも部屋の意向により、限られた時間の制約の中のことであり、また、一山本関本人においても、巡業の合間を縫った多忙な中での、行事への出席となることから、これらについては、地元後援会と十分協議をさせていただきながら、より良い方法を検討してまいりたいと考えております。

2 項めは、ナマコ種苗で実績のある先進組織と積極的に情報交換を持ち、ノウハウを収集し、種苗生産施設を設けるべきと思うが考えは、についてであります。

ナマコ種苗の育成につきましては、現在は、東海大学生物学部の指導のほか、道主催の北海道ナマコ種苗生産者担当者会議に出席するなどして、種苗実績のある関係者と情報交換を行うことで種苗生産技術のノウハウの情報収集を行っており、今後もそうした先進組織の情報を積極的に取り入れながら種苗生産技術の確立に努めてまいります。

その上で、技術が確立した際には、岩内郡漁業協同組合と町、民間事業者など水産関係者間において、生産体制の構築など、計画についての具体的な検討を踏まえ、種苗生産施設の整備を検討してまいりたいと考えております。

3 項めは、施設の改修・更新計画について、ポンプ設備の更新が中長期財政見通しの中には反映されているのか。改修・更新にかかる費用はいくらかについてであります。

ポンプ設備の更新については令和 11 年度からを予定しているため、中長期財政見通しには反映されておらず、改修・更新にかかる具体的な費用も調査中でありますので、改修費用が確定し、更新計画が具体的になり次第、中長期財政見通しに反映させてまいりたいと考えております。